

素掘調査で重要文化財「石井閘門」の石積み構造把握へ ～石工職人による現地調査を行います～

石巻市に位置する重要文化財「石井閘門」は、完成後132年(明治13年完成)が経過しており、長い年月による施設の老朽化に加え、昨年3月の東北地方太平洋沖地震及び津波により被災したことから、施設補修のため、昨年8月に保全対策検討委員会を設立し、12月より閘門全体の本格的な調査を行っています。

閘門内の水抜きを行った際に、最下層部より漏水及び土砂の流出、石積み背後地盤のゆるみが確認されたことから、検討委員会の委員より、石積み構造の安定性について確認が必要との助言を受け、今回、素掘により石積み構造を把握する調査を行うこととしたのでお知らせします。

※関連は8月3日、12月3日記者発表済み

《参考》

石井閘門

・明治13年(1880年)に完成し、東北地方開発の拠点として建設を進めた野蒜築港事業の代表的な遺構であり、西洋から取り入れた近代土木技術によるはじめて整備された現在国内で稼働しているものとしては最古の閘門*

・平成14年5月(2002年)に、国の重要文化財に指定

※閘門とは、水位の異なる河川や運河などの間で水位を調節し、航行する船を上下させるための施設

○過去の補修事例

・平成22年に中島閘門(富山市)の門扉交換、塗装等の補修実績がある

■現地調査

平成25年2月6日(水) 13時～15時予定

■現地調査の場所

石井閘門(石巻市水押3-6)

■参加者

日本石材研究所 小林善勝 代表

※日本城郭補修の第一人者で、青葉城(仙台市)・横須賀城(静岡県掛川市)などの文化財修復を指導

稲井石材商工工業組合 2名

稲井石用材協同組合 1名

※地元石巻市内で稲井石(井内石)の生産・販売・施工を行っている組織

気象状況等によっては、調査を延期することがあります

※発表記者会：石巻記者クラブ、古川記者クラブ

国土交通省北上川下流河川事務所

石巻市蛇田字新下沼80

電話0225-95-0194(代表)

技術副所長 佐藤 伸吾(内線205)

管理課長 畑山 作栄(内線331)

位置図



素掘調査のイメージ

